



# 学校だより 10月号



【TEL 045-933-7652 FAX 045-937-0964】

## 安心できる環境を作るために

校長 三橋 淳子

虫の音に、秋の気配を感じる季節となりました。学校では新型コロナウイルス感染症への対応に努めつつ教育活動を進めておりますが、子ども達は、元気に日々の学習や活動に取り組んでいます。

先日の全校朝会では、読書の秋という言葉から、ぜひ、たくさんの本を読み、辞書に触れ、語彙の引き出しを増やすことで、自分の思いを相手に伝えたり表現したりできるようにしてほしいと話しました。また、別の朝会では、新型コロナ感染症に伴う対応として、もし身近に感染症にかかったり検査を受けた人がいても、自分だったら、と考えて、その人が嫌な思いをしないように接してほしいと伝えました。

今年度は行事も例年と異なり、できることを模索しながら進めていますが、運動会につきましても土曜日の午前中、二部制で行い、参観は保護者の方のみとし、その人数も制限させていただく形で計画をしています。限られた中ではありますが、子ども達にとって充実した時間となるよう、進めて参ります。

10月も感染症への対応も含め、子ども達が安心して安全に学びを深めることができるよう、丁寧に教育活動を進めて参ります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※次の文章は、文部科学大臣から「保護者や地域の皆様へ」として届いたものです。ご覧ください。

### 文部科学大臣メッセージ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月 文部科学大臣萩生田光一